

例会報告

第303回 「尾崎人形絵付け体験」

佐賀市水防センター（2021.6.20）

久しぶりに青空が広がり、梅雨の中休みとなった20日、高柳政廣さんと城島正樹さんの両名を講師に迎え、神崎市尾崎地区に伝わる伝統玩具「尾崎人形」の絵付けを体験した。尾崎人形は、古くは元寇襲来による弘安の役（1281）の際に渡来人から学んだことがルーツとされ、尾崎地区では火鉢や瓦を製造する過程で余った土を用いて人形が作られ、今日、高柳さん、そして新たに加わった城島さんまで伝承されてきた。最近では、昔から伝わる定番の鳩笛のほかに、千支の人形や人気のカチガラス、ムツゴロウも加わり種類も賑やかになった。佐賀を舞台にしたアニメ「ゾンビランドサガ」にも登場している尾崎人形だが影響は大きく、工房には全国からアニメファンも訪れているそうだ。



本来なら土からこねて作るのがさが科学少年団の流儀だが、コロナ禍には勝てず、短時間での絵付け体験のみとなった。説明を担当した城島さんからは塗るときのテクニックについてしっかりと説明を受けたが、“なるほど！”と感心したことがあった。それは机上には絵付けされた見本が一応は置いてあるが、「このように塗ります！」と一度も見本を見せなかったことだ。先入観を植え付けることなく、デザインの一切を絵付けする本人のセンスに委ねたのでは…。だからこそ、形は同じでも世界でたった1つの自分の宝物になるんだ！と、そう気づかされた。



最初は下地として真っ白に塗られたハト、ムツゴロウ、カチガラスだったが、次第に各人の個性が発揮された作品へと変わっていった。カチガラスの羽はよく観察するとブルーっぽい色彩を持つが、その色にこだわった作品、自分の嬉しい気持ちが作品に表れているようなパステル調のかわいい作品。ゴールドをふんだんに使ったこだわりの作品、幾重にも色を重ねた深みのある作品など、思わず見入ってしまう作品ばかりだ。出来上がった作品は、どれもが本人にとって唯一無二のものであり、宝物となったことだろう。

団員から嬉しい言葉もいただいた。「久しぶりに親子で1つのことに夢中になれる時間が持てた。」大人も子供も忙しい現代、ほんのわずかな時間でも親子の心が通い合った時間が持てたことに対する感謝の言葉は多い。



瞬く間に終わりの時間を迎えたが、講師のお二人におくられた“超盛大”な感謝の拍手が体験者の気持ちを物語っていた。

（文責：井上 参加者41名）

参加者の感想から

大峰匠平	絵付けだけで簡単と思っていたのに、上手いできないからしんけんにやりました。色 がはみ出たりしてやり直していやになりそうになった。なっとくできるカチガラスに なりました。
田中陽菜	カラフルなカチガラスができました
田中理仁	図鑑を見ながらアオバトの色付けをしました。カラフルな色に仕上がり嬉しかったで す。父の日のプレゼントにしたら、お父さんが上手にできたねと褒めてくれたので、 嬉しかったです。

